
belive-裏の渋谷-

A

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

b e l i v e - 裏の渋谷 -

【Nコード】

N 2 4 7 1 B

【作者名】

A

【あらすじ】

2人の女の子のリアルな青春？中学生や高校生って実は一番『初めて』が多い時期。そんな年頃の女の子の話。

始まり

渋谷によくいる女子中学生。

その中にゆきもいた。

毎日カラオケ。プリクラ。その繰り返し。

そろそろこの生活にも飽きたなあー。

ゆきはそう思っていた。

『ねえねえなんか面白い事ないかなー？みか好きな人とかいないの？』

『いないよー…ひまだよね。』

親友のみかとはいつもこんな話をしている。『私たちが中学入って、学校帰り毎日こうやって遊んで、もう3年になるよね！それなのにお互い未だに一人身ってやばくない！？笑』

2人はよくこんな話をしている。

そんなある日。

一人の男性が2人に声をかけてきた。

『君たちさあ、お金ほしくない？』

『あー…』

普段から援交はよく誘われる。

いつもは立ち止まらずにシカト。

でもこの日はなぜか話を聞いてしまった。

聞くとその男はパンツを5000円で売ってくれ、と言っている。

2人の周りにも何人かそうゆうことをやっている子はある。

『パンツぐらいなら…。』

先に言い出したのはみかの方だった。

ゆきもとまどいながらも、みかの意見を否定しなかった。

バイトができない中学生にとって、5000円とはかなりの大金なのだ。

男とゆきとみかの3人は場所を移動した。

移動中は怪しまれないように、男とは少し離れて歩いた。

周りの人の視線が鋭く見える…。どこかで友達や警察がみているんじゃないかと、ゆきはドキドキしていた。
隣のみかを見ると、意外にも冷静だ。

『ここでいつか』

男が立ち止まり男の視線の先を見ると、そこは寂れたビルのような建物だった。

『2階上がれば見えないでしょ』

ゆきは、カラオケや漫画喫茶など個室を想像していたので

『ここ！？』と聞き返してしまった。

『カラオケとかが良くない？』

みかが言った。

きつとみかも同じ事を考えていたのだろう。

『カラオケはお金かかるでしょ。5000円からカラオケ代ひいていいならカラオケでもいいけど。』

男は意外とケチだった。

(…じゃあパンツなんか買っなよ…)

ゆきとみかは心の中でツッコんでいた。

『じゃあいこう』

ゆきとみかは仕方なくビルの階段の2階で我慢することにした。

ゆきとみかは制服だったので、中が見えないようにスカートで隠してパンツを脱いだ。

『お金は前払いで下さい』

よくテレビや雑誌なんかでパンツだけ渡したらお金をもらう前に逃げられた、と女子高生が言っているので、お金は先に請求した。

男は財布から一万円札を出し、みかに手渡した。

ゆきとみかもパンツを渡した。

階段を降りたら一言も喋らず、男は人だかりの中に去っていった。これが2人の初めての『売り』だった。

慣れ

『みか今日も渋谷いくよね？』

H Rが終わつたと同時にゆかがみかの所に向けよる。

2人は週3ゝ4のペースで渋谷に通つた。

とはいつたものの、実際声をかけてくるオヤジは少なく、いたとしても下着の売り買いではなく本番までだとか…下着なんてごくたまにである。

実はこんな事やっている二人でも、彼氏ができた事ないだけあつて、まだそうゆう行為をしたことがないのである。

『初めてが援交つてのは嫌だよね…なんか痛そう。』

『痛いのは誰でも痛いでしょ！』

2人は渋谷で声をかけられるのを待ちながら、こんな話を話していた。

オヤジに下着を売っても金はだいたいその日のうちに使いきつてしまふ。

とくに2人がよく行く109では、一着の服でも普通に一万ぐらいだから、金がいくらあっても足りない。

2人の服装は、私服の時はギャルとまではいかないが少し派手めな感じだ。

お金が入ってくるにつれ、全て100均だった化粧品がそここのブランドのものになり、雑誌を買ったりエクステをつけたり、二人は少しずつだがオシャレになっていった。

むしろ稼いだお金は全てオシャレにつきこんでいるという感じだ。

2人の顔はどちらかというと、きれい系ではなく可愛い系だから、同年代からよりもおじさんウケがよかった。

渋谷で歩いているとよくナンパやキャッチもあったけど、はつきしって今の2人にはそれはウザいだけとゆう感じで、視線はおやじにばかりいつていた。

周りから見たら少しおかしかったかもしれない…

出会い

そんなある日、ゆきはみかと別れた後、電車に乗り地元に戻ろうとしていた。

すると、

こつちをちらちらと見てくる2人組の男子学生がいる。

一人はかっこいいけど、一人はまあ普通。

ゆきが電車を降りた所で、その2人も降りていた。

改札を出て、いつも自転車を止めている駐輪場へ向かおうとした時、そのうちの一人が話しかけてきた。

『何年生ですか?』

その声をかけてきた男子学生はかっこよくない方だった。

『あー、中3ですけど...』

『まぢ!?!年下かあー。アドレス教えてくれない?』

『はあ...』

ゆきは断るのが面倒臭くてアドレスを教えた。

『じゃあね!』

そついうと改札の方に戻っていった。

…わざわざアドレス聞くために電車降りたのかな…?

するとさっそくメールがきた。

こんにちわ!今アドレス聞いたゆうすけだよ!よろしく(＾o＾)

よろしく() /ゆうすけくんは地元どこなの?

地元は一個隣の駅だよ(<|>)名前なんていうの?

ゆきだよ(*´、*)

だんだんメールが面倒臭くなり、携帯をいじるのをやめて本屋に入った。すると、一人の男が何かを探すように床に手をつけている。

どうしたんだろ?と思いつつも、その男の前にたっている女子高生の横にたつて、本を立ち読みした。すると、なんと横で床に手をつけている男が隣にいる女子高生のスカートの中を除いているではないか。

ゆきはびっくりしていったんその場を離れた。

そして2階に上がった。2階にはほとんど誰もいなかった。何か嫌な予感がした…。

コツコツ…コツコツ…

階段から誰かくる音がする。

すると、さっきの男が2階に上がってきた。

ゆきは、とりあえず本を読むフリをした。

男は初め辺りを一周し、そのあと奥の方でうろちよろし、最後にゆかの真後ろにきた。

覗かれる…

ゆきは少し怖かったが、冷静を装い本を読むフリをしつつけた。

しかし心臓は今までにないほどの爆音だったに違いない。

後ろを横目でたまにちらちらと覗いて、男を見たりした。

すると、男は座り下に並べてある本を見だした。

ゆきはまだ本を読むフリを続けている。

そんな事を何分か続け、しばらくしてふと下を見た。

するとなんと男の顔が真下にあるではないか！

…！？！？！？

びつくりしたゆきは言葉がでなかった。

覗き

ゆきは走って1階にいき、一連の流れを店員に行った。

『えっと…黒の服で、髪は短くてっ…』

焦ってうまく説明できない。

さつき覗かれていた女子高生の所にいき、その子にも

『さつきあなた覗かれましたよ!』といった。

女子高生はわけがわからずかなり戸惑っている。

『あなた、パンツの中…覗かれ…あっちがう、スカート…』

説明もわけがわからなくなっている…

女子高生は

『…は?』

ほんとにわけがわからず、

『すいません、しつれいします』

と行ってしまった…

さつき言った店員を見ると、覗き男になにか言っている。どうやら注意しているみたいだ。

その男は最初は言い訳していたが、途中で店の外にだされ、注意を受け、もうその店には立ち入り禁止という事になった。

店員はゆきの所にもきて、その男にすっかり注意してくれた事や、男が反省していた事など、丁寧に教えてくれた。

『ありがとうございます』

お礼をいい、ゆきは店を出た。

落ち着いて本が読めなかったので、別の本屋に移動した。

すると、あの男がまたいるではないか！

しかもまたやっている。

どうやらまったく反省してないらしい…

ゆきはもう店員にいうのも面倒になり、その場を立ち去った。

家に帰り、今日あったことを電話でみかに話した。

みかはかなり爆笑していた。

緊張感のある話のはずなんだけどなあ…

みかは『覗かれたんならお金とればよかったのに！』なんていつて

いた。

まあたしかにその通りだ…ゆかは今さらだが少し後悔した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2471b/>

belive-裏の渋谷-

2010年10月10日10時29分発行